Karlgren[24] 氏は前者を palatal の ṣi 後者を supradental の ṣi と見てゐるが、勿論兩者殆んど同一音たること疑無い。されば迷詩所と彌師訶とは外國音を寫す上に於て、單に訶と所とを異にしてゐる譯である。訶、所の二字の音が相異つてゐることは言ふまでも無いが、然も此等の兩者は殘卷1行と2行とに殆んど相並んで書かれてあるのを比べて見れば其の字形の著しく類似してゐる事が認められるであらう。前にも繰返して述べた如く、此の殘卷には字形の類似に基く誤寫は甚だ多いのであるから（例へば來を求と誤り、復を優と誤るやうに）、この「所」もまた「訶」の誤であらうと認めるのも、決して無理ではあるまいと信ずる。若しそうであれば、迷詩所は迷詩訶の誤であつて、迷詩訶、彌師訶等と同一語であると考へ得られる次第である。序聽の二字については今適當な解釋を得ない。併し「序」については前にyeの音に對するものであらうと見た。聽が若し正しく書かれてあつて、序聽の二語に適當な解釋が加へらるゝならば、固より疑義を挾むべきではないが、若し此の字についても字畫の誤が有るかも知れないといふ疑を以て臨み得るならば、前述の如く124行には移鼠迷師訶、卽ち、ソグド語の經典にも屢見ゆる yiṣō'msīḥâ に當る文字が記されて居るから、聽が數とか鼠とかの音を有した文字の誤で、yiṣō'msīḥâ 經、卽ちイエス・クリスト經といふ題では無いかと疑つて見ることも、必ずしも無理ではないかとも思ふ。

拂林園烏梨師斂城(127)。拂林園の園が國の訛であるべきは殆んど疑無い。拂林國といふ名及び其の位置等については、從來諸家の研究を更めてこゝに紹介するには及ばない。たゞ此の經を論述した人は烏梨師斂城を拂林國の中に置いてゐることを注意すれば足りる。烏梨師斂 *uo-li-ṣi-liäm は言ふまでもなくエルサレムで、パーラヰ語でもソグド語でも 'ōrišlim と書かれ、トルコ語の景典にも urïslïm と正しく寫されてゐる。馬太傳以下の福音書には